シネマネキ

2011年10月　第4号
（抜粋版）

cinemaneki

『大正の映画上映会』 ―今も新しい 大正のサイレント映画を楽しむ

大正時代に思いを馳せ、当時の映画上映の環境を想像するも、いまひとつリアリティが沸かない三人。
〈しぶ〉と〈よね〉は巣鴨の側で働いていることもあり、街に関する話題に花が咲きます。

しぶ
　巣鴨って、どことなく大正時代をフューチャーしてる気がする！
ひぐ
　大正時代は、映画の最盛期なの？
よね
　そうだね。明治時代の最後の方に映画が輸入されて、大正時代の前後に色々な人が映画に関わり始めたんじゃないかな。
しぶ
　そのフィルムが残っているんだね！
ひぐ
　10月9日は活弁がつくけど、8日はまったくのサイレントで聞くんだね。どんな感じだろう？
よね
　ね。字幕はあるけれど、音がない。みんなひたすら観るんだね。
ひぐ
　すごいね。当時の映画館でも、そうやって皆観ていたのかな。
よね
　弁士や楽団がいない上映があったら、そういう風になっていたってことだよね。
しぶ
　そして、とげぬき地蔵は大正時代からあったんだ。
よね
　どうやら戦争で一度焼けてしまって今のは再建みたいだね。
ひぐ
　じゃあ焼ける前の映像が観られるんだ、貴重だね。
しぶ
　あとは、伊藤大輔さんの作品？
よね
　伊藤大輔さんは、時代劇の父と呼ばれた人だね。
しぶ
　そうなの！？最近、偉大な作家から学ぶ企画も多い気がするなぁ。
よね
　世の中が混迷しているからね、そうなりやすいのかも。

ひぐ

『息をのむ、豪快な立ち回り』が観られるんだ。

よね

でも着物を着ていたり、刀を持っていたりした時代は、立ち居振る舞いから違うよね。現代人との違いなんかも面白いんじゃないかな。

ひぐ

活弁士の坂本さんは、初めて知ったけれど若い方だね。

しぶ

先月号で取り上げた『キネマの夕べ』でも、この方の活弁だったね。次世代のホープの一人みたいだよ。

よね

マツダ映画社に関わりながら修行を積んだみたい。

ひぐ

マツダ映画社はサイレントフィルムも沢山持っているし、活弁イベントもかなりやっているよね。

しぶ

活弁士も応援してる会社なのか。

よね

この企画は映画上映だけじゃなくて、都電を貸しきったライブとか、大正時代の写真展もあるんだね。

ひぐ

商店街の中で映画を観るっていうのも、なかなか無いよね。

しぶ

大正時代の格好した女性たちが、歩いてイベントを盛り上げているらしい！

よね

巣鴨の商店街は、歩くのに短すぎず、長すぎず、良い商店街だよね。

ひぐ

巣鴨は場所柄、知っていてもあまり行かないよね。とくに若い人はね。

よね

でも結構面白いし、最近街であんまり出会えないものが食べられるよ。おはぎとコーヒーセットとか、蕎麦屋であんみつとか。

しぶ

旧中山道に近くて、宿場町の賑わいが残っている感じよね。JRの大塚駅や王子駅から都電でも一本だし。

ひぐ

都電もいいねぇ！

大正の映画上映会

マツダ映画社

ドキュメンタリー映画 『結い魂』プレミア試写会

上映会のチラシを読みながら、ドキュメントや残すものについて考えさせられる三人。最近里帰りをしていた〈しぶ〉のおばあちゃんの話も飛び出して、皆それぞれに家族のことも思い起こした座談でした。

ひぐ

アサヒ・アートスクエアで映画上映って、珍しい気がする。

よね

アサヒ・アート・フェスティバルの企画で、映画のプロジェクトが立ち上がって、その完成披露試写会だって。でも確かに、珍しく感じるね。（会場には）大きなスクリーンがいくつもあるから、かなり映画館っぽくなるかもしれない。

しぶ

このドキュメンタリーは、近江八幡で撮られたんだ！

よね

そしてこの映画を企画・指導している原一男さんは、革新的なドキュメンタリーを何本も作った映画監督だけれど、近江八幡には前から子ども向けの映画ワークショップなどで呼ばれていたらしいよ。

ひぐ

へぇー、６作品のオムニバス上映かぁ。若者がお年寄りを撮ったんだね。

しぶ

確か近江八幡に閉館した古い映画館の外観が残されている場所があった気がする。それに数年前からアートプロジェクトを始めたという話も聞くし、町家を改装し障害のある方の作品も扱っているミュージアムNO-MAがあったり、面白い活動が起きているね。

よね

水郷っていうイメージしかなかったけれど、色々あるんだね。関西っていうと、近江八幡は新しい活動がされている場所なの？

ひぐ

もちろん京都も大阪もあるけれど、でもNO-MAはプロのアーティストも障害のある人も同じように取り上げていて、そこまでフラットな活動をしているところは他にはないかも…。

しぶ

おいしいバームクーヘンもあるんだよ！

ひぐ

今回のシネマネキも記録映画が多いけれど、ドキュメントが重要な時期にきているよね。

しぶ

フィルムだけじゃなくてビデオとか、残せるものが増えたのもすごいよね。

よね

映画というかフィルムができた当初って、むしろ赤ちゃんの成長とか、見たことのない世界を描くファンタジーとか、未来を残そうとしてた様に思うけれど、（映画が生まれて）１００年以上経って何を無くさずに残すべきか、という方向性が強くなっていると思う。「時代は変わったなぁ」というか…。

ひぐ

はは。お年寄りみたいな発言。

しぶ

お年寄りといえば！うちのばあちゃんね、昔は写真に写ることを、すごく嫌がってたの。でも最近自分から撮ってくれって言うんだよね。しかも意識しているのかわからないけれど、ポーズまでちゃんと決めているの。変わったなって、すごく思った。

ひぐ

えー、なんでだろうね。

しぶ

わからないんだけれど…。でも私たち若い世代は、携帯とかにもカメラついているでしょ。それを見て「あるなら撮ってよ」って感じのことを言うんだよね。日常的に写真を撮る文化を受け入れ始めたのかな？

よね

なんだか不思議な話だね。昔はどんな気持ちで写真を撮られていたんだろう？

しぶ

そうだね、家の中でも撮ってくれる感じとか、自分の残された時間を感じてもいるだろうしね。想像だけど…。

よね

でもこの試写会の楽しみの一つは、原一男さんと加藤種男さんが一緒にトークをするって所でもあるよね。

ひぐ

どんな会話がなされるんだろう。でも加藤さんは確か、関西がご出身だよね。

よね

そっか。で、原一男さんは大阪芸大で教えているんだって。

しぶ

原一男さんは、どんな作品を撮る方なの？

よね

一言じゃいえないけれど、結構すごいことを撮る人だよ。『ゆきゆきて、神軍』は撮影期間中に被写体の人が殺人未遂罪で逮捕されるし、『全身小説家』は取材中にこれも被写体の小説家の経歴詐称が明らかになったり…。扱うテーマ自体も、他の人が触れようとしない様なことを取り組む監督だと思う。

ひぐ

話には聞いてたけれど、ますます興味がわいたなあ。観てみよう。

YUI-GONプロジェクト

アサヒ・アート・フェスティバル

NO-MA

初めは〈港町〉という言葉の響きに惹かれた三人でしたが、次第に戦前・戦後のどちらも生きた、監督の生き方にも興味を持っていきます。作品を生み出した作者を想像するのも、映画の楽しみ方の一つですね。

ひぐ
　清水宏さんは小津安二郎と同い年！
しぶ
　へぇー!!
よね
　巨匠的な扱いはされていないけれど、色んなタイプの作品を撮った作品だよね。
ひぐ
　「実写的精神を大事にした」って書いてあるね。
よね
　劇的な演出などを極力排除して、「役者なんかもの言う小道具」と言ったらしいよ！
ひぐ
　すごいね。社会や世界の前では、人間なんて小道具ってことなのかしら。
しぶ
　戦災孤児を引き取って、育ててきた人でもあるんだ。
ひぐ
　『港の日本娘』がサイレント映画で、２００３年の上映ではフィルメックスが、本田さん（作曲家）に音楽を委嘱して、それを今回はチャンチキトルネエドによる演奏付きで再び上映するんだね。
しぶ
　本田さんは、チャンチキトルネエドを立ち上げた人だけど、この作曲をした一年後に亡くなってしまったみたい。でも他のメンバーが活動を続けているんだね。
よね
　チャンチキトルネエドは、どんなバンド？
しぶ
　ブラスバンドだね。
ひぐ
　（映画の）ストーリーは？
よね
　横浜出身の女の子の物語だね。嫉妬から男の子を拳銃で撃ってしまった女の子が、神戸や長崎の港町を渡り歩いて横浜に戻ってくるという設定みたい。

ひぐ

人間関係が入り組んでいく感じのストーリーだね。

よね

港町を渡り歩いちゃうのか。

しぶ

いいねぇ。

よね

昨日、夢の島に行ったんだけれど、海辺って色々あるなって思っちゃった。原発も、ゴミの埋め立ても…。

しぶ

そうね、しかも海を渡った人の流れもあるもんね。大陸から人が来たり。

ひぐ

そういう人たちが着いた場所が、港町なんだよね。異文化とか、いろんな要素が共存して街が成り立っている感じだよね。

しぶ

人がいるところに、映画ができるということだね！

よね

でも私、はじめて神戸に行ったとき、横浜に似てるなって思った。

ひぐ

わかる！

しぶ

長崎も似てるよ。

よね

そうなんだ。清水宏さんは戦災孤児とかも引き取って彼らのことも作品にしたらしいし、港町の風土とかも含めて、華々しい部分ではないものを残そうとした人だったのかな。

渚のスペクタクル2011実行委員会

チャンチキトルネエド

メゾンエルメス10階ル・ステュディオ 特集プログラム 『ドキュメンタリーフィルムから広がる世界』

今まで行きたいと思いながら、敷居が高かったエルメスでの上映を取り上げ、はしゃぎ気味の三人。銀座で素敵な映画を観ることを思い浮かべるだけで、すっかり楽しくなってしまいました。

ひぐ

エルメスは、10階のシアターで定期的に映画上映を行っているけれど、（シネマネキでは）今回初めてとりあげるね。銀座にエルメスがオープンして10周年で、その記念特集が２年間に渡って行われるらしい。

しぶ

8階にはギャラリーもあるけれど、ドアマンがドアを開けてくれて、バック売り場を通って…、少し緊張するよね。

よね

でも10年ずっと、映画を上映し続けるって大変だよね。予約しないと入れないけれど、無料というのもすごい!!

しぶ

今回の特集タイトルは、『ドキュメンタリーフィルムから広がる世界』。

よね

10周年を記念して、エルメスの職人さんを追ったドキュメンタリーを製作したんだって。

しぶ

いいねぇ。観たい。

ひぐ

私は、『パリと職人たち』プログラムも気になっているよ。アニエス・ヴァルダが職人さんを撮ったら、どんな風になるんだろう？

しぶ

アニエス・ヴァルダって？

よね

〈ヌーベル・ヴァーグ〉の少し前から、今でも映画を撮り続けているフランスの助成監督。（プロフィールを見て、）『シェルブールの雨傘』のジャック・ドゥミと夫婦だったとは知らなかった！

しぶ

1932年の職人さんと、2011年の職人さん、どっちも見られるのが素敵だね。

よね

山形ドキュメンタリー映画祭プログラムも注目だよね。過去の映画祭での上映作セレクションと今年のコンペティション作品も呼んでいる！山形ドキュメンタリー映画祭は世界中の

ドキュメンタリーが集まる映画祭で、観にいっても楽しいって聞いたことがあるんだけれど、なかなか山形までは行けずにいたから…。

しぶ

それが銀座に！「銀座」と言えば〈銀ブラ〉だよね。有楽町から歩いてくるのも楽しいし。

ひぐ

考えてみれば、この辺りは今も映画館が結構あるね。銀座シネパトス*1では名画座企画をやっているし、エルメスの近くにはシネスイッチ銀座もあるね。

よね

有楽町朝日ホールは、イタリア映画祭やフィルメックスの会場だしね。やっぱり、銀座が東京の文化拠点だったから、映画全盛期に色々と建てたんだろうね。

しぶ

飲食店もショッピングも豊富だから、親子で映画観るなんていうのもいいかも。

ひぐ

どこで、誰とその映画を観たかっていう体験も結構大事だからね。

ARTiT メゾン エルメス
銀座シネパトス
シネスイッチ銀座
朝日有楽町ホール

『天使の話・失くしものの ライブパフォーマンス』レポート

2011年9月18日（日）18:00-19:00　@カトリック世田谷教会
下北沢を代表する小劇場、ザ・スズナリの裏にあるカトリック世田谷教会のお庭での野外ライブパフォーマンスを観に行ってきました。

このライブパフォーマンスは『THE SECRET GARDEN~Unlock the memories／シークレット・ガーデン～記憶の鍵』というイベントの中の一つで、他にかき氷屋さんやケイタリング、どこでも生花ワークショップや、映像作品などの展示、マッサージなども行われていました。
ライブの最初はVOQ本多裕史さんと松本力さんの曲とアニメーションを少し、その後、今回の目玉へ。今回のアニメーションは、東日本大震災のチャリティーのために、輸送されてきた『天使の石像』が輸送中欠けてしまい、〈失くしてしまった大切なもの〉への想いを込めて9月4日に再生ワークショップを行った後に作ったものです。天使にはそれぞれ参加者にタイトルをつけてもらい、VOQ本多裕史の音楽にのせる歌詞になり、小林エリカと松本力の天使のアニメーションと共に、ライブパフォーマンスで聖歌隊と共にうたわれる音楽になっていました。
そんなライブの会場は、とても素敵なお庭の一角の石の壁の中にマリアさまがいらっしゃり、暗くなると共にロウソクでライトアップされ、いろんな場所に直された天使たちが飾られていて、なんだかみんなを見守っているようでした。ライブによりお客さんの心もひとつになっていくような、とても素敵なライブパフォーマンスでした。
そして、松本力さんのアニメーション上映ライブ恒例の〈チカラタイム〉では、段ボールで作った天使の羽を羽ばたかせながら、今回も熱く歌ってくださいました。いつも癒しと力を与えてくれるライブで、次回も楽しみな上映会（？）のひとつです。

THE SECRET GARDEN~Unlock the memories

シネマネキ 第4号（抜粋版）

http://p.booklog.jp/book/38147

著者 : cinemaneki
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/cinemaneki/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/38147

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/38147

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.